

# 優秀賞 全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞

## 大切に守り続けたい荒川

東京都 足立区立東綾瀬中学校

三年 小島 啓太郎

僕の休日の楽しみはサイクリングだ。いつも自宅近くの荒川沿いのサイクリングロードを走る。北区の岩淵水門から東京湾へ注ぐ新砂までの約二十キロが定番のコースである。そこはとても整備されていて、周囲の環境も良く、いつも「楽しくて気持ちいいなあ。」と思いつながら走っている。

川を下るにしたがって、周りには高層の建物が並ぶようになる。それだけ近くの人口が増えれば、当然生活排水によって、川が汚染されるだろうと思っていた。

しかし、休憩場所で川の中を覗き込むと、たくさん的小魚が群れをなして泳いでいたり、近くにたくさん鳥や昆虫を見つけたことができる。また、広い運動場なども設置されているし、花壇もきちんと整備されている。この時僕は、荒川がきれいなことに本当に驚いた。

「果たして、荒川の水は本当にきれいなのか」そういう疑問を持った僕は、昨年の夏、荒川の水質を調べてみることにした。具体的には市販の簡易水質検査キットを使って、全長百七十三キロに及ぶ荒川のうち、源流に近い秩父市から河口までのうち合計十か所で水採取し、水質を調べた。

その結果、源流から約百四十キロの志木市秋ヶ瀬橋までは、ほとんど水質に変化がなく、下流にくるにつれ、多少は川のにごりや臭いがあったものの、水質上はともきれいな川だということがわかったのである。

残念ながら、岩淵水門の辺りから、足立区小台、江戸川区平井あたりは、アンモニウムやリン酸の数値が高かった。しかし調べてみると、いずれも問題のある数値ではないことがわかった。

この結果に、僕はあらためて驚いた。

これだけ流域に多くの人口を抱えているのに、素晴らしい水質を保ち、僕たち都民の憩いの場所となっていると同時に、動植物にも住みよい環境を作ってくれている荒川に、本当に「ありがとう」という気持ちになった。

でもこれは決して荒川が自分の力だけで水質を守っているのではないと思う。上流地域の人たちが川を汚さないように気をつけて下さるおかげで、下流の僕たちの所まできれいなまま流れてくる。だから僕たちも、荒川がきれいなまま東京湾に出ていけるよう気をつけていかねばならないと思う。

母は、「最近、使用後の食用油を排水口に流さないのは常識になってると思うよ。」と言った。祖母は「さすがが一回ですむ洗剤ができたから、水の節約にもなるし、排水も減らせるね。」と言った。

生活の工夫や進化が、川の汚れを食い止めてくれているのかもしれない。けれども、それに加えて僕たち一人一人が、川を汚さないという意識をもつことが大切だと思う。

たった一人のたった一つのゴミかもしれない。しかしそれらが積み重なると、とても大きな汚れになることを忘れてはいけないと思う。

とても寒かった冬が過ぎ、今はまた絶好のサイクリング日和が続いている。僕はまた今週末も荒川沿いを走る。

走りながら「楽しくて気持ちがいいなあ」と思うのは以前と変わりはない。しかし今は、「ありがとう」と「大切にしていきたい」という気持ちが新たに加わっている。